



一般社団法人
日本助産学会
ニュースレター

No.92

*The Japan Academy of Midwifery Newsletter***ご挨拶**

日本助産学会 理事長
片岡弥恵子

COVID-19 感染拡大の防止に向けて、会員の皆様も様々ご苦労されていることと存じます。皆様のご努力に心から敬意を表します。依然として予断を許さない状況が続きますが、皆で協力して、できることを粛々と続けていきたいと存じます。

さて、本学会の最近の動きをご紹介します。第34回学術集会はWeb学会となりましたが、ポストコンgressセミナーを含め過去最多の参加者数でした。どこからでも参加できるWeb学会の強みを実感することができました。そして、第35回もWeb学術集会とすることを決定し、高田大会長をはじめ企画・運営委員の皆様は、より臨場感があり交流できる魅力的なプログラムの企画してくださっています。新たな形態の学術集会を皆で創っていきたく存じます。さらに、第34回学術集会の有森大会長からのご提案で、学術集会での講演を集積し配信するといったオンライン研修を充実させるためのワーキングを発足させることになりました。多くの会員が有効に活用できるように運用方法を検討して参ります。

2020年は、32nd ICM Triennial Congress がイン

ドネシアバリで開催される年でした。皆様ご存知のとおり、大会自体は2021年5月30日～6月3日に延期されました。大会に先立ちまして、ICM評議会が6月26日に行われました。ICMに加盟する団体は、2名の代議員を出すことができます。本学会からは、江藤副理事長と渡邊国際委員長が代議員として参加されました。2020年ICM評議会の議案は、新しい理事の選出、会費システムの変更、理事数の変更などが出され、web会議にて審議されました。結論から言うと、すべての議案が承認されましたが、今後検討が必要と考えられる事項もございました。詳細は、後ほど、ご報告いたします。最後に、2026年のICM大会は、ポルトガルのリスボンに決まったこともお伝えいたします。

2020年度より、新たな理事会メンバーにて本学会の活動をスタートいたしました。高田前理事長より会長の任を引き継ぎましたが、混乱の中、スムーズなスタートが切れたとは言えません。しかし、実力ある理事の皆様と力を合わせ、学会の大きなビジョンに向かって活動を推進していきたいと存じます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

第34回日本助産学会学術集会の報告

第34回学術集会長 有森直子

第34回日本助産学会学術集会は、新潟の地で参集することは叶わず、インターネット学術集会という形で開催いたしました。多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げます。以下、その概要について報告させていただきます。



【インターネット学術集会開催決定までの経緯】

第34回日本助産学会学術集会は2020年3月20日～22日に新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）での開催を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症が日本においても拡大する状況の中、新潟会場での開催を見合わせ、急遽「インターネット学術集会」としての開催へ変更いたしました。

事前登録締め切り2日後の2月16日、国の第1回新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が開催されました。これを受け、2月19日にはまず学術集会ホームページにて、「学術集会開催については、今後も情報を収集して慎重に判断する」「現時点では可能な限りの衛生対策を行い、予定通り開催する」という内容を掲載しました。今後1ヶ月で事態は収束するのではという希望的観測も含まれておりました。しかしこの決定を日本助産学会理事会で承認していただく数日のうちでも、事態はどんどん変化していき「中止の可能性大」という雰囲気が漂ってきました。2月27日、高田理事長との連名でホームページ上にて正式にインターネット学術集会の開催を周知することとなりました。

【インターネット学術集会、ポストコンgressセミナー開催状況】

今回は、当初予定していたプログラムを可能な限りオンデマンドで配信しました。配信期間は、①3月21日～31日までの11日間、②4月20日～5月10日までの21日間の2回にわたり配信しました（表1参照）。

表1 学術集会の開催概要（期間・人数）

1：インターネット学術集会
会期：2020年3月21日（土）9:00～3月31日（火）17:00
参加者：2,201名（会員938名、非会員1,218名、学生45名）
2：ポストコンgressセミナー
会期：2020年4月20日（月）10:00～5月10日（日）17:00
参加者：230名（会員77名、非会員149名、学生4名）



オンデマンド配信としたことにより、多くのプログラムを視聴することが可能となりました。CLOCMiP®の更新等とも関係したプログラムの受講者数が多い傾向がみられました（表2参照）。

表2 各プログラムの受講者数

プログラム	CLoCMiP®	受講者数		
		インターネット 学術集会	ポストコング レスセミナー	合計
開会式		917		917
会長講演		686	110	796
特別講演「人生 100 年時代のウィメンズヘルスと助産」	ウィメンズヘルスケア研修	985	189	1,174
教育講演 1 「周産期と倫理」	ステップアップ研修	1,041	174	1,215
教育講演 2 「新潟県のリプロダクティブ・ヘルスの黎明期を支えた人たち—新潟県助産師教育の黎明と世界が認めた産婦人科医 荻野久作」		256	46	302
教育講演 3 「新たないのちをチームで見守る ～周産期医療チームの連携～」		710	80	790
教育講演 4 「学校で配慮と支援が必要な LGBTs の子どもたち」	ウィメンズヘルスケア研修	1,129	179	1,308
シンポジウム 1 「乳がんと助産ケア」	ウィメンズヘルスケア研修	1,228	171	1,399
シンポジウム 2 「ときめき女性医学—助産学と女性医学の連携を探る—」	ウィメンズヘルスケア研修	1,038	172	1,210
シンポジウム 3 「大規模コホート研究が導く人生 100 年時代の助産ケア～女性の生活習慣と健康環境と子どもの健康に関する調査から～」	ウィメンズヘルスケア研修	948	162	1,110
シンポジウム 4 「今世界が目している出産ケア」	ウィメンズヘルスケア研修	1,160	194	1,354
シンポジウム 5 「助産師教育の修業年限 2 年を考える」		395	61	456
シンポジウム 6 「女性の健康と冷え症のケア」	ウィメンズヘルスケア研修	1,072	95	1,167
交流集会 3 「性暴力への対応力を高める：日本版性暴力対応チーム研修体験のすすめ」	ウィメンズヘルスケア研修	930	165	1,095
交流集会 5 「新潟は米処！酒処！もぐさ処？！～鍼灸師だけが知っている お灸の魅力とツボケア～」		338		338
プレコンgress 2 「特定妊婦の課題と代替養育～切れ目のない支援を目指して～」	ウィメンズヘルスケア研修	774		774
プレコンgress 3 「PT とコラボして骨盤周囲の触診技術を高めよう！」	ウィメンズヘルスケア研修	1,029	197	1,226
プレコンgress 4 CLoCMiP®研修「助産師に求められる意思決定の支援」	020 年、2021 年 WHC 研修、 2022 年以降必須研修	999	191	1,190

【ポストコンgressセミナーの開催】

インターネット学術集会は3月21日～3月31日までの期間で開催しましたが、この間、予定されていた CLoCMiP®研修会も全国的に中止となりました。日本助産評価機構等から、本学術集会の CLoCMiP®プログラムの配信期間を延長してほしいとの要望をいただきました。そこで、企画委員会、理事会の承認を得て、4月20日～5月10日の期間でポストコンgressセミナーとして再配信いたしました。ポストコンgressセミナーでも予想を上回る多くの参加者にご視聴いただきました。

た。

【CLoCMiP®プログラムへの対応】

今回の学術集会では、CLoCMiP®対象の講演をできるだけ多く受講していただけるようなプログラム構成を準備していました。インターネット学術集会ではどのように CLoCMiP®受講者へ対応できるのか？確保すべき講演時間、事前事後のテスト、動画またはナレーション付きの配信データ準備、修了証の発行、プログラム視聴の確認…クリアすべき壁が存在していました。

抄録のウェブ上での公開を依頼していたシステム会社に急遽、インターネット学会の運営にもご協力いただくことになりました。上記で挙げたような壁も一つ一つクリアし、修了証も参加者が名前入りで自宅でダウンロードできる、視聴ログが残るために、万が一修了証のダウンロードが上手くいかなくとも対応可能、と CLoCMiP®プログラムもどうにか配信できました。



【講演、交流集会、プレコンgressの講師の方々のご協力】

2月27日にインターネット学会開催が決定し、開催方法を明確にするまでに時間を要しました。日本助産学会としてももちろん前例はなく、独自の開催方法を模索せざるを得ない状況でした。

開催方法についてはいくつかの選択肢がありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐことが最大の目的であるということから、講師の方に事前に資料（動画）を作成いただき、それを開催期間中に配信する、という開催方法を選択しました。

講師の方には、資料の準備期間が大変短く、様々な制限のある動画資料を作成していただき、本当に有難いご協力を賜りました。また、インターネット学会後の、ポストコンgressセミナー、そして現在も継続中の看護師・助産師教育用教材としての配信に関しましても、可能な範囲でご協力を賜りまして、重ねて感謝申し上げます。

【ホームページ、Facebookの活用】

学会のホームページ、Facebookを情報発信ツールとして活用しました。今回の学会のメインテーマである「人生100年時代の助産ケア」にちなんで、開催予定日からちょうど100日前にFacebookページを開設しました。Facebookでの情報は学術的な内容というよりは、地方での開催ということもあり、新潟の魅力や私たちの身近な話題をほのぼのと発信しておりました。新潟の食や自然を中心にした記事や、会長自らの自撮り(!)を少しでも楽しんでいただき、新潟を訪れることを心待ちにくださったフォロワーや閲覧者の数が、少しずつ増えていきました。



また、開催が急遽インターネット学会へと変更になった後も、ホームページで情報を随時更新していくのに合わせて、Facebookでもシェアしました。励ましのお言葉や、またご自分のページで情報をシェアしていただくなどのご協力もありました。

【今後の学会への期待】

インターネット学会では、一般演題が紙上発表のみとなったことをとても残念に思います。また、展示、共催のお申し込みをいただきました企業の皆様にもご迷惑をおかけしました。インターネット学会のメリットを最大限に活用し、またデメリットを克服することで、今後の学会がより一層発展することを第34回日本助産学会学術集会企画・実行委員を代表して祈念いたします。

第 35 回日本助産学会学術集会開催のお知らせ

第 35 回日本助産学会学術集会 企画委員

この度、第 35 回日本助産学会学術集会を 2021 年 3 月 20 日(土)・21 日(日)に開催いたします。前日の 19 日にはプレコンgressがあります。

メインテーマは「助産師として生きる～改革と挑戦～」です。

助産師はこどもの誕生と母親の誕生、そして新しい家族の誕生という場に出会える、素晴らしい職業です。そのケアは点ではなく、妊娠期から育児期までの継続した線のケアであり、それらが地域という面で大きく広がり、そして深くつながるケアにもなります。目まぐるしく変化し、多様性を大事にし、そして持続可能性(サステナビリティ)を目指す社会において、母子やその家族、女性たちに必要とされる助産師は何をすべきかを常に考えなければなりません。本質は変わらないほうがいいです。しかし、変化し新たに変わらなければならないものもあります。それらを見極め、改革し、新たなことに挑戦していくことが今、助産師に必要と考えています。

<オンライン学術集会に決定>

今回、企画委員としても皆様に神戸でお会いできる機会を設けたいと考えておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、皆様に安全安心に学術集会を楽しんでいただけるよう、オンライン学術集会として開催させていただくことに決定いたしました。テーマの「～挑戦と改革～」の通り、今までにない新しい形の学術集会の企画を進めております。また、学会当日にはオンライン上で皆様の活発なご討議が行われるような企画も検討中です。[新型コロナウイルスに関する企画も考えております](#)。全て、実行委員もわ

くわくするような魅力あるプログラムとなっております。企画の詳細が決まり次第、HPにてご紹介いたします。楽しみにお待ちしております。

<スケジュール>

演題募集期間：2020 年 7 月 7 日(火)～9 月 16 日(水)

参加登録期間：2020 年 10 月 21 日(水)～2021 年 1 月 13 日(水)

<学術集会情報>

今後は様々な情報を HP に掲載するとともに、Instagram、Facebook でも会議の様子や企画の紹介などを発信していきます。どちらも学会 HP から学会公式ページに入れます。ぜひご覧ください。

第 35 回日本助産学会学術集会

HP <http://jam35.umin.jp/>

Instagram<https://www.instagram.com/jam35kobe/>

Facebook <https://www.facebook.com/jam35kobe/>

第 35 回学術集会 学術集会長

高田昌代様からポスターデザインのご紹介

今回、学会のモチーフには、「神戸らしさ」を皆様にお伝えするのはいつも「これだ」と思っていた、神戸出身の木版画家川西祐三郎氏の、海から見た神戸のメリケンパークの作品を使わせていただきました。川西祐三氏の作品との出会いは、神戸西市民病院(震災で大きな被災があった病院)の 1 階の壁一面に描かれたのを見て、圧倒して立ち尽くした経験からです。今回の作品は、川西祐三氏

の神戸らしい版画作品の中から、迷いに迷った末、強さから、助産師たちが「改革と挑戦」の航海に出ているというイメージを感じ取り、企画委員全員一致で決定しました。ちなみに、風月堂ゴフルの缶にも使用されています。神戸市は、幕末の開港以来、多様な外国文化を取り入れて独自の文化を築いてきた歴史を持つ街です。また、阪神・

海の青さと船の躍動感、そして版画から感じる力淡路大震災からも見事な復興を成し遂げた街でもあります。そのような多様性がありエネルギーがある都市から現役の助産師はもちろんの事、助産の未来を担う助産学生とも、未来について熱く議論ができ、そして楽しめる大会にしたいと考えております。

第35回 **日本助産学会学術集会**
The 35th Convention of the Japan Academy of Midwifery

テーマ **助産師として生きる～改革と挑戦～**

2021 **3/20**(土)・**21**(日) | 会場 **神戸国際展示場**

会長
神戸市看護大学 教授 **高田 昌代**

第35回日本助産学会学術集会運営事務局
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 株式会社インターグループ
TEL:06-6372-3052 FAX:06-6376-2362
E-mail:jam35@intergroup.co.jp

詳しくは→<http://jam35.umin.jp/>



複数の産科医療補償対象事案から考える助産師の生涯教育の強化

産科医療補償制度 原因分析委員会 委員 高田昌代、馬目裕子
再発防止委員会 委員 井本寛子

2009年に産科医療補償制度が創設され10年が過ぎました。この間さまざまな取組が行われてきましたが、同じ分娩取扱機関で数回に渡り制度による補償を行った事案がありました。そこで、産科医療補償制度原因分析委員会が、この同じ分娩取扱機関で発生した複数事案の原因分析を行いました。その結果、この分娩取扱機関では、原因分析報告書で指摘された事項について「改善されていなかった」ことがわかりました。原因分析委員会では、同じ分娩取扱機関に同じような指摘が繰り返し行われた場合、当該施設に対し原因分析報告書を送付する際に、指摘事項について一層の改善取り組みを要請するため「原因分析報告書の送付にあたり」という別紙(要望書)(以下、「別紙」)を送付し、その半年後を目途に当該施設から取組実施報告を求めるという対応が行われています。

産科医療補償制度運用開始から2020年5月末までの間、該当する医療機関に94件の「別紙」が送付され、指摘事項に対して改善を求める一層の取り組みが要請されています。指摘事項で最も多い改善要請は「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」、次いで「診療録の記録」、「子宮収縮剤投与方法」です。同じ分娩取扱機関で複数の補償対象事案が発生されているということは、指摘事項が改善されていれば防ぐことができた可能性の高い事案で

あるということも考慮に入れる必要があります。これらの補償対象事案には、助産師をはじめとする看護職員が少なからず関与しています。

分娩に携わる助産師すべてに、専門的知識と技術に裏付けられた助産実践能力が求められています。助産師は、胎児の健康と親の安心・安全のために、生涯教育を強化しながら学習を継続していくことが求められています。現在、就業助産師のうち約3人に1人が助産実践能力習熟段階レベルⅢの実践能力をもつアドバンス助産師として認証を受けています。胎児心拍数陣痛図の判読をはじめ、助産記録や子宮収縮剤の投与方法についても必須研修として受講しなければ、アドバンス助産師の認証を受けることができません。助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証をすべての助産師が目指し、アドバンス助産師として活躍していただきたいと思えます。

折しも2020年度は、アドバンス助産師の更新年です。新規申請はもとより、母と子を守っていくために、専門職としての研鑽に努め、「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」、「助産記録」、「子宮収縮剤投与方法」の知識と技術を確実にしてアドバンス助産師の更新をしましょう。

学術賞受賞論文 ～論文誕生秘話～

「出産体験の評価尺度 Salmon's Item List の日本語版の開発

—分娩様式を問わない出産体験評価尺度の検討—

岩手保健医療大学看護学部 助教 佐藤 恵

この度は、日本助産学会学術賞に選出いただき、誠にありがとうございました。この身に余る賞を受賞できましたこと、ご推薦頂きました先生方や、論文作成にご指導ご協力いただきました方々へ心より感謝申し上げます。

本論文「出産体験の評価尺度 Salmon's Item List の日本語版の開発—分娩様式を問わない出産体験評価尺度の検討—」は、2014年～2016年に東北大学大学院医学系研究科保健学専攻周産期看護学の修士論文で取り組んだ研究の一部です。帝王切開術という分娩方法が増加し、珍しくない状況となっている中で、「帝王切開術で出産した女性の出産体験は経膈分娩と比較してどうか」を明らかにしたいと考えました。日本国内における先行研究では、帝王切開術で出産した女性について、一般的に帝王切開術を受けたことを「ショックな体験」「よくない体験」など否定的に捉えがちであることが多いと結論づけられておりました。しかし国外では、分娩様式による出産体験のとらえ方に差はないという報告も多くありました。

そこで私は、日本においても、不妊治療の進歩や出産年齢の高齢化といった社会的背景から、女性の帝王切開術に対する認識が変化している可能性があるのではないかと考えました。また当時、帝王切開術で出産する女性は、全分娩の約20%に上り、珍しくない状況になっていました（その割合は現在では、病院25.8%、診療所14%（2017.厚労省）になっています）。将来的にも、分娩様式を問わず、同一尺度で出産体験を評価する必要があると考えましたが、その当時、帝王切開術で出産した女性の出産体験を評価する尺度はわずかに

散見されるのみで、適当なものが見つかりませんでした。経膈分娩と帝王切開術による分娩、どちらの分娩様式でも使用でき、かつ簡便な共通の尺度があったら、臨床現場でも使用しやすいと考えました。そこで、本論文にあげたように、国外で出産体験を評価するために使用されている Salmon's Item List の日本語版の開発に取り組みました。Salmon's Item List は英語版の他、ドイツ語版も開発され、産後の女性の出産体験のみならず、父親の出産体験の評価にも幅広く使用されております。

尺度の翻訳はWHOの Process of translation and adaptation of instruments の手順に沿って行いました。また尺度の考案者である Peter Salmon 博士に許可を得て、日本語版の開発に取り組みました。この尺度のよいところは、「うれしかった—うれしくなかった」「簡単だった—簡単ではなかった」など形容詞20項目のみのリッカートスケールのため、回答が非常に簡便であり、なおかつ女性個々の様々な幅広い価値観に柔軟に対応できる点です。その結果、分娩様式によるスコアの違いがわかり、日本人に対しても使用可能であることが確認された他、帝王切開術と経膈分娩では差がなかったことや、緊急帝王切開術と吸引分娩のスコアが低く、出産体験がよくないこと、予定帝王切開術ではむしろ自然分娩よりも出産体験がよいことなどが明らかとなりました。

しかし、この結果は限られた地域のみでの調査であったため、現在、普遍妥当性を担保する目的で、全国調査に取り組んでいるところです。この尺度を、より多くの出産施設で活用していただく

ことができ、産後ケアの取り組み等に少しでも役に立つことができたらいいなと思っております。

日本語版の作成に向けて、長期にわたり激論を戦わせていた東北大学医学系研究科周産期看護学のゼミも懐かしく、つい討論が長引き最終新幹線に間に合わず、研究室に泊まらざるを得なかった

ことなどが思い起こされます。

この賞を受け、今後も多くの女性の出産体験が肯定的に受け止められることを、また前向きに育児を行っていただけるようお願いを続けていく所存でございます。この度は誠にありがとうございました。

学術賞受賞論文 ～論文誕生秘話～

「高齢妊婦と非高齢妊婦における骨密度・骨代謝の比較」

同志社女子大学看護学部嘱託講師 仲田靖子

この度は日本助産学会学術賞という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。推薦いただきました先生方、本研究に協力いただきました妊婦の皆様、研究を進めるにあたりご指導をいただきました先生方をはじめ様々なご支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

私が妊婦の骨密度に興味を抱いたのは、京都大学大学院在学中に骨密度測定器に出会ってからです。当時、骨密度測定器は妊婦の体組成の客観的データを収集する機器の一つとして大学にありました。妊婦の運動効果について興味を持っていた私は、運動が骨密度にいい影響を与えるという知識しかありませんでした。妊婦の骨密度について調べていくと、骨密度には様々な因子が関連しており、妊娠により変化すること、骨密度の最大値は二十歳前後であることが明らかになっていました。骨密度が減少していくのをただ見ているしかないのか、どうにか健康な女性として長く生きていくことはできないのか、と様々な疑問が湧いてきました。今、目の前におられる妊婦さんの骨密度はどのようになっているとどのようになっているのだろうかと思いました。とりわけ調査をさせて

いただいた産婦人科には高齢妊婦が多いという特徴があり、高齢妊婦と非高齢妊婦の骨密度・骨代謝の変化に着目し研究を重ねた結果、本論文に至りました。骨密度は個人差や過去の生活習慣が影響するので、前向きコホート縦断研究にこだわり対象者様の妊婦健診毎に骨密度を測定させていただく日々を送りました。データ収集は本当に大変でしたが、協力していただいた方々の善意を決して無駄にすることがないように、誠実に丁寧にデータを扱いました。しかし、なかなか思ったような結果が出なかったり、分析の切り口に迷ったりしました。そんな時、ご指導して下さった先生方のご支援、ゼミで気付いたことをアドバイスしてくれた院生の同期をはじめ様々なご支援を下さった皆様のお陰で諦めることなく、この度一部ではありますが、論文として形にすることができました。この研究がすぐに妊婦さんをはじめ女性の皆様のお役に立てるものではありませんが、微力ながら助産学の発展に寄与できるよう関わり続けたいと思います。改めて、この度は本当にありがとうございました。

「NIPTのよりよいあり方に関する提言」を助産師としてどう受け止めるか

日本助産学会 理事 中込さと子

1. 日本助産学会ニュースレターNo90 のその後
2019年9月に発行された日本助産学会ニュースレターNo90にて、遺伝看護専門看護師/助産師の御手洗幸子氏から「出生前検査をめぐる動向と助産師だからできること」を投げかけられました。この頃から厚労省（母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）の調査等に関するワーキンググループ）や日本産科婦人科学会（PGT-Mに関する倫理審議会）では出生前検査体制に関する議論が進められましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でストップしました。そのような中、2020年6月 NIPTに関する2つの発表がありました。

2-1. NIPTのよりよいあり方に関する提言

6月17日「NIPTのよりよいあり方を考える有志」により、「NIPTのよりよいあり方に関する提言」が関連学協会に送付され、6月24日に記者会見が行われました。

「NIPTのよりよいあり方を考える有志」とは、齋藤有紀子氏と柘植あづみ氏が呼びかけた、産婦人科医、小児科医、助産師、認定遺伝カウンセラー、臨床心理士、ピアサポート、市民グループ、社会学、法学、医療人類学、生命倫理学などの背景を持った人々でした。提言作成にあたり、それぞれの分野・立場で大切にしている言葉を重ねあい、確認しながら、議論をくり返しました。下のホームページから全文をお読みいただけます。

<NIPTのよりよいあり方に関する提言>

URL : <https://niptpgd.blogspot.com/>

2-2. 日本産科婦人科学会の記者発表

2020年6月20日、NIPTをめぐり、日本産科婦人科学会（日産婦）は、実施施設を小規模な診療所にも広げることで日本小児科学会や日本人類遺伝学会と合意したと発表しました。これまでの指針を一部改定し、日本小児科学会が認定した小児科医との連携などを新たな実施施設の条件としています。日産婦は今後、厚生労働省に報告し、運用するかどうかは判断を待つ方針とのことです。

3. 今、真に助産師の在り方が問われている

私は2-1の有志メンバーとして議論に加わりました。ここにある7つの提言は、妊産婦と胎児、子育て中の母はもちろん、子どもを望む女性や産まないと決めた女性へのケアに従事する助産師・保健師・看護師にも投げかけられたものです。

まず全文を読みましょう。これは出生前検査を否定するものでも勧めるものでもありません。また、の権利の下に胎児の命を置くことでもありません。

NIPTのより良い在り方に関する提言の骨子

- 提言1（当事者参画）
- 提言2（女性の意思決定の尊重）
- 提言3（医療者に対する研修の充実）
- 提言4（関連情報へのアクセス保障）
- 提言5（検査後の女性のケア充実）
- 提言6（社会全体で平等な社会を構築）
- 提言7（罰や差別のない法制度の確立）

私たちは産むのを助ける女（助産師）ですが、女性と共にある女（Midwife）だということを忘れてはいけないと思うのです。提言2（女性の意思決定の尊重）「医療者は、NIPT の情報提供の際に、医療者自身の価値観を反映させないように留意し、女性の意思決定を尊重してください。」とあるように、女性とどう共にあるかを考え行動することが

求められているのであって、自己の価値観を守り押し付ける事ではないのだと思います。

この提言は、大変重く厳しい内容ですが、助産師の私たちへの贈り物であり、使命だと思うのです。私は、助産師の皆様、この提言を出生前検査とリプロダクティブヘルス・ライツをめぐる新たな倫理綱領とすることを提案いたします。

ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

ICM支援のための募金を常時受付けております。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

今年度（2020年度）会費

（普通会员・特別会員：10,000円、

学生会員：4,000円）

納入のお願い

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願いいたします。過年度の会費が未納の方は今年度分と合わせて、早急にお振込みください。

会費納入は、専用の郵便振替払込用紙をご利用いただきます。お手元に用紙がない場合は、事務局まで以下の件名のメールをお送りくださ

い。

件名:日本助産学会年会費 払込用紙再送希望

(会員番号:〇〇〇〇 氏名:〇〇〇〇)

メール本文は不要です。メール確認後、会員管理システム登録の送付先にお送りします。

なお、会員管理システムの住所確認・変更は日本助産学会ホームページの「会員専用ページ」より行ってください。

会員管理システムへは、

日本助産学会ホームページ>画面上部のタブ>会員専用ページ

と進みますと、ログインページにアクセスできます。

学会誌投稿や学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になりますので、応募される場合は、会費納入をお済ませのうえお申し込みください。

振込忘れや振込の手間を省ける銀行口座自動引き落としの方法をお勧めしています。銀行口座自動引き落としへのご変更は随時受け付けていますので、会員専用ページにて支払方法変更のお手続きをお願いします。

請求書・領収書については会員専用ページから出力できますので、あわせてご利用ください。

変更届について

住所等の変更に関しては、会員専用ページで随時手続きが出来ます。会員専用ページへのアクセス方法は、前項にてご案内しておりますのでご確認ください。なお、姓のご変更については、会員管理システムでは対応できないため、ホームページ最下部(フッター部分)にある「お問い合わせ」より「住所変更および退会届(Word版)」をダウンロードし必要事項をご記入のうえ、事務局(jam@soubun.com)までご提出ください。

退会届について

退会を希望される場合は必ず、ホームページ最下部(フッター部分)にある「お問い合わせ」より「住所変更および退会届(Word版)」をダウンロードし必要事項をご記入のうえ、事務局(jam@soubun.com)までご提出ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届のご提出をお願いします。退会届のご提出がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。納入いただいた会費は返金

いたしませんのでご了承ください。特に銀行口座自動引き落としをご利用の方で退会を希望される方はご注意ください。

『エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2020』会員追加購入のお知らせ

2020年2月以降に会員の方には『エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2020』を1冊お送りしています。会員の方で追加購入希望の方は、以下ホームページのご案内を確認ください。

日本助産学会ホームページ>画面上部のタブ>学会誌・刊行物>助産に役立つガイドライン
本文中に記載の「会員の方の追加購入はこちらをご参照ください」をご覧ください。

https://www.jyosan.jp/modules/topics/index.php?content_id=32

*非会員の方の購入は出版元の日本助産師会出版で取り扱います。

<http://www.midwifepc.co.jp/index.html>
販売価格は会員の追加購入・非会員で変わりますのでご注意ください。

一般社団法人日本助産学会事務局

〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16

創文印刷工業株式会社 内

TEL:03-3893-0111 FAX:03-3893-6611

E-mail:jam@soubun.com

ホームページ: <http://www.jyosan.jp/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



一般社団法人

日本助産学会ニュースレター

No.91 2020年7月発行(Web版 No.16)

発行: 一般社団法人 日本助産学会

〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16

創文印刷工業株式会社 内

TEL:03-3893-0111 FAX:03-3893-6611

E-mail:jam@soubun.com

URL:<http://www.jyosan.jp/>

代表者: 片岡 弥恵子